

平成30年度決算をこう評価する

10月11日の本会議において、平成30年度一般会計決算について5会派から討論が行われました。その要旨をお知らせします。

「身の丈に合った、持続可能な行財政運営」に徹底することを要望

自 民 党



この度の決算審査では、西川区長の第4期目の3年目に当たり、その成果を確認した。区政の全般にわたり区民サービスの向上に向けた着実な前進が図られており、改めて西川区政の成果を高く評価する。

まず、財政状況については、過去最大規模となった特別区税収入を始め、各種財政指標はいずれも極めて健全な財政運営が維持されていると評価できる。区財政がここまで改善されてきたのは、我が党がかねてから主張続けてきた、徹底した行財政改革に、区が熱意をもって取り組んできた結果であると評価する。

本決算には、区の将来を見据えた施策や、弱い立場の方々にも可能な限り、行政の光を届ける施策がしっかりと盛り込まれ、着実に取り組んでいる。

福祉分野については、ひとり暮らし高齢者の在宅避難に係る不安解消に向けた事前のグループづくり、障がい者基幹相談支援センターを「たんぼぼセンター」へ設置、ふれあい生き絆サロンへの参加促進、生活保護被保護者への就労支援の強化を求める。

教育分野については、日暮里区民事務所仮設建物の二日小をはじめとした、学童クラブ室への転用など施設等の有効活用の推進、子どもの「あいさつ教育」並びに「あらかわ寺子屋」の拡充、特別支援学級の内容充実、不登校児の細かな配慮対策、スクールサポートのスタッフ拡充、中学校防災部の増強ならびに装備の充実とOBやOGに向けた消防団への加入推奨、学校施設の中規模回収計画の策定に取り組むよう期待する。

防災分野については町会における災害時の備蓄物資の整備検討、特殊詐欺対策のさらなる推進、緊急

医療救護所への参集体制と備蓄品配備の徹底を求める。

観光振興の分野については、千住大橋の綱引き大会の復活、太田道灌のPRと道灌サミットの開催を求める。

芸術文化振興については、文化活動の拠点にふさわしい町屋文化センターのリニューアルを期待する。

子育て環境の整備については、病児病後児保育の充実、児童虐待防止に向けた保育園と児童相談所の連携、保育需要の減少を睨んだ適正規模の検討、保育園との格差を埋める私立幼稚園の支援検討を要望する。

街づくりの分野については、日暮里や西日暮里の街づくりの方向性と再開発の可能性と、その概要および大ホールに対する区の費用負担の精査、台風による街路樹の被害と今後の対策、二項道路に対する電柱のセットバック問題の解消、日暮里駅の紅葉橋の改善に取り組むこと。

区においては、こうした状況を踏まえ、是非とも「身の丈に合った、持続可能な行財政運営」に徹底すると同時に、行政改革は未来永劫の課題であるため、サンセット方式の導入を強く要望し、本決算の認定に賛成の討論とする。



◀日暮里駅前シンボルの太田道灌像「回天」枝

今後も「幸福実感都市あらかわ」構築のために、一層の努力をするよう強く要望する

公明党



平成30年度予算は、区民の安全安心はもとより、子育て環境の整備、地域経済や文化・スポーツの活性化など、真剣に取り組むという区長の強い決意に基づき、「くらしの安らぎと夢を育む予算」として編成され、執行されてきたものと理解している。

平成30年度決算を総括すると、一般会計の歳出総額は932億円余りで、前年度に比べ1.2パーセントの増となっている。普通会計における主な財政指標を見ると、経常収支比率は前年より0.8ポイント改善している。財政健全化法に基づく健全化判断比率においても、実質公債費比率1.2パーセントなど、いずれの指標の数値も、早期健全化基準を大きく下回る良好な水準を維持している。また一方で、少子高齢化の進展に伴う社会保障関係費の増大、老朽化した公共建築物等の更新、首都直下型地震への備えなど、多額の財政負担を伴う行政需要が見込まれている。

30年度の具体的な施策については、我が党が区長に提出した「平成30年度予算に関する要望書」に掲げた「食品ロス削減対策の周知徹底」や「児童相談所の区移管に向けた諸施策の実施」等の項目は、概ね予算化され執行されている。これらの他にも数多くの事業が着実に進展していることを高く評価する。



▲大人向け



▼小学生向け

◀食品ロス削減リーフレット

この度の決算に関する特別委員会で行った要望や改善の提案の数々について、前向きな答弁がなされたと理解する。中でも、児童相談所の充実に関しては、繰り返し要望してきたところであるが、安心して施設を運営できるよう、環境整備についてはこれからも

強く要望していく。また、幼児教育・保育の無償化や食品ロス削減推進法などの施策に対する区の対応も高く評価する。今後も引き続き「幸福実感都市あらかわ」構築のため、一層の努力されるよう要望して、賛成の討論とする。

消費税増税を容認し、区民への影響と大変さに十分向き合うことができず、くらし応援が不十分

共産党



9月会議のさなかの10月1日、消費税10パーセントへの増税が強行された。区民の暮らしと地域経済を壊すことを顧みない愚行に抗議するとともに、以下の理由から決算認定に反対する。

まず第一に、区民の暮らしに寄り添う点で不十分である。区は、消費税増税に対し「将来の国民生活の安定に資するため」という、政府の見解を繰り返し、区民に寄り添い「住民福祉の増進」という自治体本来の役割を果たしていない。また、国民健康保険、介護保険、後期高齢保険料のトリプル値上げ等もあり、区政執行上も暮らし応援が最優先で求められたが、極めて不十分であった。

第二に、西日暮里駅前再開発について、区は都市基盤整備の最優先課題と位置付けているが、木造密集地域の整備や防災対策などへの取り組みが不十分である。また、住宅政策についても、公的住宅の拡充や家賃補助等、区民が安心して安全に暮らせる住まいの確保が自治体の責任である。

第三に、基金の積み立てが過度になっていないかという問題である。公共施設等の更新については、起債や補助金などを計画的に活用し、対応できる。基金積み立ての適切な基準を設けるべきである。



◀西日暮里駅周辺の様子

最後に、決算に関する特別委員会でも指摘した、来年7月に開所の児童相談所における子ども関連事業との連携強化や、これ以上の公立保育園の民営化の停止、保育士の処遇改善、人件費割合が異常に低い私立保育園などへの適切な指導・検査、学童クラブの必要に応じた増設計画を求める。

また、消費税増税の深刻な影響を受けている区内小規模事業者への支援強化において、既存の補助金を工夫し、生産性の向上とともに、区内事業者の活性化等、一石三鳥の効果が期待できる。各会派より提案された、加齢性難聴対策としての補聴器購入の助成などの新年度予算での具現化を求め、反対の討論とする。

区民の生活に対して、幸福を感じられる環境を十分に作る
ことができたのか

維新・あたらしい党



決算に関する特別委員会においては、昨年度の予算執行の中で実施された行政の施策が、区民の生活に対して、幸福を感じられる環境を十分に作る
ことができたのか、区民の目線に立って審議に臨んだ。

当会派からの質疑では、子宮頸がんワクチンの接種に関する問題、ヘルプマークの普及啓発について、飼い主がいない猫への対策事業に関する課題の提起、待機児童に対するベビーシッター利用制度の導入及び保育ママの事業者拡大、歩きたばこと吸い殻のポイ捨てなどについて、取り上げた。



◀歩きたばことポイ捨て禁止

答弁の中では、前向きな回答も得られ、既に対応を進めている議題もあるが、課題の解消に向けて、さらなる施策の実現、実行を期待する。

これまでの先人達が築いてきた荒川区を、あたらしい目線でより住みやすい、住んでいて良かったと

思えるまちづくりに向けた議論をこれからも行っていくとともに、今回の決算に関する特別委員会において提案した点について、実施、実行を求め、賛成の討論とする。

荒川区が「One Team」
1つになって、課題に全力で取
り組んでいくことを期待する

民主ゆいの会



「くらしの安らぎと夢を育む予算」と位置付けられた平成30年度予算は、限られた財源を重点的かつ効果的に配分すること、区政運営の改革をさらに推進するとともに、事務事業の再点検・見直しを図ること、中長期的な視点に立った財政運営を行うことの3点に重点を置いて編成された。

決算に関する特別委員会においては、この方針のもと、区民が納得・満足の実感できる施策が実行されたのか、チェック機関としての役割と、区民のためのさらなる施策の提案機関としての認識をもって審議に臨み、認定できる決算と判断した。

質疑の中で取り上げた、学校の防災ヘルメットの導入、荒川遊園B地区でのスケートパークの整備等について今後の前進を要望する。

ラグビー・ワールドカップ日本大会において共感を得たラグビー精神を大事に、区民誰もが「荒川区に住んでいてよかった」と実感できるように、区が「One Team」1つになって、課題に全力で取り組んでいくことを期待して認定に賛成の討論とする。



◀荒川遊園B地区の周辺の様子